



<http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

大図研近畿 3 支部合同例会のご案内

テ ー マ：日本十進分類法新訂 10 版の全貌

概 要：新訂 10 版が出たばかりの日本十進分類法は、いったいどんな改訂がなされたのでしょうか？編集委員を務められた藤倉さんにお話を伺います。

講 師：藤倉 恵一 氏（文教大学越谷図書館）

開催日時：2015 年 3 月 21 日（土）13:45－17:00（13:15 開場）

場 所：京都市国際交流会館 第 1 会議室・第 2 会議室

参 加 費：大図研会員は無料
（非会員は 500 円 参加費は当日会場でいただきます。）

共 催：大学図書館問題研究会大阪支部・兵庫支部

申込方法：大図研近畿 3 支部合同例会申込フォーム
（<http://www.daitoken.com/kyoto/event/20150321.html>）
からお申し込みください。

申込締切：2015 年 3 月 14 日（土）
※当日参加も可能ですが、資料の準備や懇親会会場確保のため、
なるべく締切までのお申込をお願いします。

そ の 他：終了後、懇親会を予定しています（実費負担）

[目 次]

大図研近畿 3 支部合同例会のご案内	…	1
小特集：大図研京都ワンディセミナー「飛び出せ！ダイトケン学生会員 ～学生の発表！学生との交流！～」参加報告		
大図研京都ワンディセミナーの感想	出口 慎一	… 2
若い力に希望を感じた研修会	山下 晶子	… 4
「秋の奈良！大学図書館見学ツアー」参加報告 奈良はゆったり美しい	平川 陽子	… 5
『アナログ司書の末裔伝：図書館員は本を目で見て、手でさわらな あかんよー廣庭基介先生傘寿記念誌ー』の薦め	堤 美智子	… 6

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：kyoto@daitoken.com（大学図書館問題研究会京都支部）

URL：<http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

小特集:大図研京都ワンディセミナー
「飛び出せ!ダイトケン学生会員 ～学生の発表!学生との交流!～」参加報告
大図研京都ワンディセミナーの感想
出口 慎一

<第1部>

「国民精神総動員文庫について～1年間の調査報告～」というテーマで国民精神総動員文庫設置の経緯について資料を伴い説明していただいたので分かりやすかったです。国民精神総動員文庫という名前をこの発表で初めて聞きました。オーディエンスの方々も国民精神総動員文庫という名前を聞いたことがないという方が多く、説明に聞き入っていました。

1年間の調査報告ということで概要が中心といった内容でした。内容をまとめると

1. 国民精神総動員文庫（以下、精動文庫）設置の経緯

- ・時期としては昭和13年～16年ごろ。
- ・昭和12年に日中戦争開始。同年に国民精神総動員運動が開始される。
- ・昭和13年4月に国家総動員法公布。同年5月の中央図書館長会議で、文部省が巡回文庫のための資金提供を行う準備があると表明。
- ・同年9月には、購入資金350円と買うべき本の目録が各中央図書館に交付される。この金額は本でいうと大体200冊程度（小規模）。

2. 文部省による援助と拡充

- ・京都府中央図書館に設置された精動文庫は合計162タイトル。男女青年団の幹部や教職員、その他青少年の指導者が対象。リクエスト制度や読後感の共有なども想定。数としては足りなかったと思われる。
- ・文科省から、精動文庫への奨励金が500円出された。あわせて、タイトル数や冊数を増やし、広く巡回させるようにという指示も出された。選書の基として文部省編纂の『国民精神総動員巡回文庫目録』が配布される。
- ・これに基づき、京都府中央図書館では従来の精動文庫を改良。奨励金500円に地方費100円を加えた600円で、243タイトルを購入。

といった内容でした。当時、戦争へと傾く時代を象徴した内容のように感じました。しかし、この活動が雛形となり、今の活動に結びつく点もあり、マイナス面ばかりではないのだと感じました。文面を見るだけでは当時の政治的状況と国民生活がどういったものだったかは分かりませんが、一年の調査報告ということだったのでそこまで深くは言及されておらず、今からというような形であったと考えられます。

卒業論文の題目ということで歴史から図書館史という発想の転換に驚きました。この選択からも彼の図書館への思いを感じることができました。今回は概要でしたが、研究を進め論文という形にまとまった時には是非発表して欲しいです。

<第2部>

「出会いが生み出すCHEMISTORY」というテーマで、これからの図書館を作り上げるための取り組みについてわかりやすく説明していただいたので、ポスターセッションに行っていない私たちも話に入りやすかったです。

セッションの内容についてですが、今回は三つの図書館グループの活動内容を共同でセッションの内容として取り組んでいたため、ポスターを見ただけでは個々のグループごとの活動については少し説明してもらわなければ理解できませんでした。しかし、発

表の時に個々のグループの活動内容の概要を説明してもらえたので話についていくことが出来ました。

セッションの内容については、私はまだ DUALIS や立図研の皆さんの活動内容については深く理解していませんが、どのグループも実際の図書館活動に生かせるような活動をメインとしており、図書館員の人材輩出に向け計画的に勉強会や遠征を行っているのは非常に参考になります。しかし私個人としては、活動中での触れ合いや学んだ知識を生かして実際の図書館活動に生かすという部分について、培ってきたものを通してどのような図書館活動に繋げていくのかということをもう少し詳しく知りたくもありました。そこを具体的にまとめていくことが出来れば、次の過程である図書館への支援や刺激を与える活動の方針が自然と決まってくると思うからです。発表の中で打倒筑波を謳っていたので、次回セッションの時は筑波の絵本組のように具体的な図書館活動へ結び付けたセッションを取り入れてみてはどうでしょうか。現在の目玉としては様々な大学との協力体制が充実していることだと思うので、その繋がりを具体的な図書館活動にどのように生かしていけるかを研究すれば、次の切り口を見つけられるのではと感じます。

ですが、セッションでの活動の最終的な目標は「図書館で日本を救う！」と、とても大胆で斬新な目標だったので、非常に興味を引き立てられました。そして、複数の大学で発表の舞台を共有しての取り組みは他とは違ってそれだけで引き寄せられるものがあると感じます。私たち天理大学ライブラリー同好会～ロンド芸亭～はまだ自分たちの基礎を作り上げているところで、その応用的な活動にはそこまで取り組めていないのが現状なので、図書館総合展に参加できるほどの活動成果の充実は羨ましくもあります。その充実した活動成果をぜひ次回セッションにも生かしてください。次は私たちも参加しようと考えているので楽しみです。

<第3部>

立命館大学の大学図書館の案内の画像は突貫だということで粗い部分もありましたが全体的に見やすい画像だったので理解しやすかったです。館内の利用者がすくない時間の写真だったので、ありのままの図書館を見ることができました。

学生のサポーターさんについてですが、採用の際ある程度の試験が設けられることですがその内容が少し気になりました。図書館司書としてのどの程度の知識を問われるかでサポーターとしての敷居の高さと教養の深さはどの程度のものなのかを知りたいです。そして、サポーターとしての個々の修養はどのように行っているのでしょうか。授業の合間にサポートを行っているので、一人一人が働くことができる時間はバラバラです。それは私たちが天理大学で行っているピア・サポーターも同じなのですが、立命館大学のサポーターさんは図書の配架などそこそこ難しい仕事があり、サポーターとして活動を始めた後も、誰がサポートを担当しても同じような働きができるとは限りません。そのために、立命館大学図書館ではどのような場を設けてサポーターとしてのスキルを磨いているのでしょうか。もしかしてサポートを続けて行く内に慣れていく感じなのでしょうか。そのあたりが少し興味があります。後任のサポーターのために排架個所を間違えやすい図書や雑誌のリストなど、紹介された一部の活動にはしっかりとマニュアルを作成しているようですが、その他サポートのためのマニュアルはどうしているのでしょうか。作成は誰が、いつ行っているのでしょうか、その部分が気になりました。

でぐち しんいち (天理大学 文学部国文学国語学科)

小特集:大図研京都ワンディセミナー
「飛び出せ！ダイトケン学生会員 ～学生の発表！学生との交流！～」参加報告
若い力に希望を感じた研修会
山下 晶子

大阪の本屋さんのイベントで知り合った立命館大学の学生である齋藤涼さんが発表されると知り、大学図書館問題研究会京都支部のワンディセミナーに参加しました。

発表のテーマは、「国民精神総動員文庫」について～1年間の調査報告～というものでした。そもそも、国民精神総動員文庫が何たるものかも知らなかったので、発表をお聞きするのを楽しみにしていました。

国民精神総動員文庫とは、昭和13年から16年頃、道府県中央図書館や道府県立図書館が主導して運営され、200冊程度の図書の貸出を行っており、国民精神総動員運動のなかで実施された図書館事業です。日本精神や中国事情、農業に関する図書が多く、貸出方式や巡回方式が各地で様々だったということの報告がありました。

齋藤さんは、日本史学を専攻されており、立命館大学図書館研究会に所属されていることから、卒論のテーマを探していた時に会ったのが国民精神総動員文庫だったとのことで、現在も調査を続けているとのことでした。自分の大学時代と照らし合わせて考えても、3回生の時点で卒論テーマが決まっていることに感心しました。また、2014年の大学図書館問題研究会の全国大会に参加され、そのまま学生会員となられたということで、大学の勉強だけでなく、大変熱心に図書館学を学ぼうという意欲が感じられ、発表を聞くにつれ頼もしい限りでした。

国民精神総動員文庫の実際の利用については、京都、大阪、奈良、和歌山、高知の例をあげて説明されました。中でも高知県立図書館には、資料が多くあったとのことで、積極的に利用されていた高知の優良停本所の事例の紹介がありましたが、担当員に熱意があったことが利用者数の増加につながったということでした。

その後、国民精神総動員文庫は、時代の流れとともに次第に注目されなくなっていき、予算も昭和17年度に打ち切られたとのことでしたが、大阪府の場合は予算が打ち切られた後も府の予算で回付冊数を増やしていたとの資料が興味深かったです。国民精神総動員文庫についての先行研究がほとんどないなか、今後調べていくことは大変かと思いましたが、先行研究がないということは、卒論としてはおいしいテーマだと思いますのでさらに研究を深めていってほしいです。

齋藤さんの発表の後、昨年秋の図書館総合展に京都の学生団体が出品されたポスターセッションの発表がありました。

同志社大学図書館情報学研究会(DUALIS)、立命館大学図書館研究会(立図研)、京都女子大学図書館学研究会(KWUICLS)の3団体のコラボレーションにより、作成されたポスターを拝見しました。掲げられたコンセプトが、「図書館で日本を救う、人と本がいきる図書館」と言われたことに大いに共鳴しました。インターネットで何でも簡単に調べられる世の中になりましたが、本の力を信じているのは私も同じだからです。

その後、普段は部外者は見ることができない立命館大学図書館の映像による紹介もあり、大学図書館でのアルバイトの苦労話もお聞きしました。この春にできるという新しい茨木キャンパスの図書館も楽しみです。

大学院が設立されて話題の同志社大学の図書館情報学研究会は、学生による勉強会で、約40名が所属されており、週に3回勉強会を行っているという聞いて、あまりの熱心さに圧倒されました。

また、ワンディセミナーには、天理大学のライブラリー同好会からも学生の方が参加

されており、夜の交流会で話をする機会がありました。図書館学の話だけでなく、専攻している学部の勉強内容や、所属されているサークルやアルバイトまで話が及び、自分が知らない世界が垣間見え、興味深かったです。

このワンディセミナーに参加して、図書館学を学ぶ意欲ある学生さん達に接したことで、希望が見えた気がしました。未来ある若者達が力を発揮できる社会を作るのが大人の役目でもあり、今後、彼らが図書館界で活躍してくれることを願っています。

やました あきこ (滋賀県立長浜北高校 学校司書)

「秋の奈良！大学図書館見学ツアー」参加報告

奈良はゆったり美しい

平川 陽子

はじめまして。

大学図書館問題研究会会員歴は結構長い平川と申します。最初に参加した全国大会開催地が奈良でした。ずっと福岡支部に所属していましたが、この度大阪支部へ転籍しました。職場が大阪は枚方市にある関西外国語大学図書館になったからです。丸善に所属して福岡女子大学という公立大学に勤務していましたが、突然大阪へ異動を申し渡された次第です。

長々と自己紹介を続けて申し訳ありません。

もうちょい続けますと・・・ホントに長年実家に寄生してのほほんと暮らして来ましたので、まさに青天の霹靂で、一度は固辞したのですが、寄り切られてしまいました。それでも思い切って大阪へ来ることが出来たのは、大図研の存在がデカイです。関西方面を一緒にたにしているフシがありますが、京都支部の安東さんの存在も安心材料にありました（よく九州に来られていたので）。安心材料とは違いますが、別府の立命館アジア太平洋大学の藤谷さんのこともちょっと考えました。きっと京都に戻りたいよね、私に関西へ来て申し訳ない。

8月末に大阪へやってきて数か月経過、早速11月29日京都支部・大阪支部共同開催の秋の奈良！大学図書館見学ツアーに参加させて頂きました。

秋の奈良公園散策とランチに図書館見学という魅力的な企画！九州から来たばかりなので奈良散策に激しく魅かれました（図書館見学をご準備頂いた奈良教育大学、奈良女子大学の皆様、申し訳ありません）。

世界遺産「元興寺」図書館員集団らしく文化財研究所のことが話題でした。新薬師寺では、薬師如来を守る十二神将を拝みました。「天平時代」の世界、凄すぎます！新薬師寺に行く途中、頭塔という珍しいものの紹介がありました。

そして、奈良教育大学図書館へ。

もっとも印象に残るのはやはり「電子黒板&ディスカッションテーブル」です。機能がすごすぎて、スマホも使っていない私にとっては、ただ眺めるだけで終わりましたが。コンテンツを投げてサブディスプレイに表示などの機能は、音楽付きでパフォーマンスした方が良いのか？中学時代、居眠りしている生徒に向けてチョークを投げる教員がいましたが、投げるアクションの練習が必要かも。

中々活用されないことにお悩みのような感じでした。

ライティングサポートエリアにあるファミレスタイプの椅子に人気がある、というのは興味深いお話でした。ファミレスの雰囲気は大学生に安心感を与えるのかもしれない。

ラーニングコモンズではありませんが、大学図書館には珍しい「えほんのひろば」がありました。一般開放されているとのことで、外からも直接出入り出来るようになっていきます。

部屋はカーペット敷きですが、ロボット掃除機が人気者でした。

路線バスに乗って、奈良女子大学へ移動。

結構な参加人数だったので（10人以上だったはず？）、観光シーズンに突如現れた集団は一般の皆様は少々ご迷惑をおかけしたかも。

奈良女子大学はこじんまりした美しいキャンパスでした。外からでしたが、重要文化財の記念館（旧奈良女子高等師範学校本館）を見学しました。

図書館の目玉は自動書庫。本の大きさを読み取ってコンテナを呼び出す納本作業などのデモンストレーションを行って頂きました。

自由に寄付したり借りたりできるリサイクル文庫が、重厚な書架に収められていました。階段の窓から見る景色が美しかったです。

情報処理センターと統合したことによって建物もくっついた？その接合部分に仮置きしている彫像がありました。インパクトのあるものでしたが、だれの像だったかすっかり忘れています。かなり、あやふやな記憶で申し訳ありません。

奈良教育大学、奈良女子大学の皆様、ありがとうございました。

途中頂いたランチも美味しゅうございました。奈良散策ガイドをして頂いた赤澤様、大変お世話になりました！

今後とも、よろしく願いいたします。

ひらかわ ようこ（関西外国語大学図書館学術情報センター）

『アナログ司書の末裔伝：図書館員は本を目で見ても手でさわらなあかんよ —廣庭基介先生傘寿記念誌—』の薦め

堤 美智子

長年、京都大学の図書館員であり、退職後は花園大学で教鞭をとられたわれ等の先輩廣庭基介氏が傘寿を迎えられた記念に花園大学での後輩教員である菅修一と堤美智子が標題の記念誌を編集し、花園大学文学部司書資格課程から刊行しました。

1948（昭和23）年から1993（平成5）年の45年間、京都大学図書館職員として勤務された期間に執筆された著作、その後花園大学の教員となられてからの執筆論文、また図書館員として、図書館学の教員として、さらに貸本屋研究等書誌学研究分野で廣庭氏とご縁のあった方々から「思い出の記」を寄せていただいて掲載しました。

お薦めの一番のポイントはこの『記念誌』は第二次大戦敗戦後の京都大学図書館員の貴重な記録であるということです。さまざまな研究分野の論文や著書など大学の教員の場合は、公表されれば記録として継承されて行きます。しかし、同じ大学という教育・研究の場に居る図書館職員の書いたものや、存在そのものは公の記録としてほとんど残りません。この記念誌は廣庭氏の著作だけではなく、周辺の人々が廣庭氏の思い出を語ることによって、この時代の京都大学の図書館をめぐる証言になっていま

す。タイトルの文字通りそのような意味でも「記念誌」です。

1985（昭和 60）年、廣庭氏が京都大学附属図書館閲覧掛長に就任されたころから国立大学図書館には部課長制が布かれ、省力化のために業務のコンピュータ化が進められました。標題にもあるようにアナログ司書と自称される廣庭氏の図書館人としての冬の時代でもあったのではないのでしょうか。その時代を廣庭氏は図書館員としてどのように生きて来られたか、周囲のひとびとの寄せられた文章にも良く表れています。

目次の最初Ⅰ部は廣庭氏の現在の所属、花園大学関係からです。花園大学文学部の教員陣の執筆をいただきました。図書館学の教育・研究者としての廣庭氏を知ることができます。Ⅱ部は図書・図書館史の研究者である岡村敬二氏に特別寄稿をいただきました。Ⅲ部は図書館職員時代の先輩、後輩、仲間たちの寄稿です。Ⅳ部は現京都大学図書館職員によるインタビュー記事。Ⅴ部は 5 本の廣庭氏書下ろし著作。Ⅵ部は執筆記録。執筆リストには編集担当者が解題を付けました。Ⅶ部は再び廣庭氏自身の書下ろし思い出の記。以上のような構成になっています。なかでも書きおろし論文のひとつ「京都大学の第一号専門司書 笹岡民次郎伝」は 95 頁～121 頁に及ぶ本格的な笹岡民次郎研究で、筆者の知る限り笹岡関係論文の集大成ではないのでしょうか。

その他蒸気機関車や市電をカメラに収めることも趣味としている廣庭氏にふさわしく随所に自身やカメラ仲間の撮影した写真が多数掲載されていることも『記念誌』としての役割の一端を担っています。

現在、大図研京都支部で活躍中の皆さんの中では廣庭氏と一緒に図書館業務に携わった方は数人になってしまったかと思われそうですが、司書講習などで廣庭先生の教え子だった方はかなりいらっしゃるのではないのでしょうか。筆者は 1968（昭和 43）年に京都大学附属図書館に就職しましたが、当時、廣庭氏は蒸気機関車大好きな名物司書として有名でした。その後、執筆なさった論文の抜き刷りなどを、しばしば頂戴し、幸せなことに図書館や京都関係の歴史にまつわるお話を聞く機会に恵まれました。そのような筆者でも、この『記念誌』の廣庭氏執筆リストに解題を書くために、初めて読んだ廣庭氏初期の論文もありました。

そのように廣庭氏の執筆活動は盛んで広範囲に渡っています。電子資料、デジタル化、学生利用者へのサービスの多様化に追われる現役の会員の皆さんに図書館員の原点の一つに触れていただきたくこの『記念誌』を薦めます。

なお、終わりに『日本古書通信』2014 年 5 月号と『出版ニュース』2014 年 7 月下旬号にこの『記念誌』が紹介されたことをお知らせします。

書誌事項：『アナログ司書の末裔伝：図書館員は本を目で見て手でさわらなあかんよー廣庭基介先生傘寿記念誌ー』 花園大学図書館司書資格課程 2013 年 11 月 14 日
入手先：〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1 花園大学図書館司書資格課程 菅修一（メール：s-suga@hanazono.ac.jp）にお問い合わせください。

つつみ みちこ（元京都大学図書館員・現花園大学非常勤講師）

◇ お詫び：平成 26 年度大図研近畿 3 支部合同例会の開催につきまして ◇

前号におきまして、大図研近畿 3 支部新春合同例会『飛び出せ！ダイトケン学生会員 ～学生の発表！学生との交流！～』の開催予定をお知らせいたしました。諸事情により、合同例会ではなく京都支部ワンディセミナーとして実施いたしました。申し訳ございませんでした。近畿 3 支部合同例会は、本号でお知らせしておりますとおり、3 月 21 日（土）に『日本十進分類法新訂 10 版の全貌』として開催いたします。

◇ 会費納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。既に2014年度（大図研会計年度2014.07－2015.06）に入っておりますので、2014年度の会費の納入をお願い致します。また、2013年度以前の会費をお納めいただいていない会員のみなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

会費は、¥7,000（大図研会費：¥5,000＋京都支部会費：¥2,000）です。

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904 大学図書館問題研究会京都支部

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部（kyoto@daitoken.com）まで。